

高梁川流域キッズ

たかはしがわりゆういき

高梁川流域ゆかりの

いじん けんじん とくしゅう

偉人・賢人特集



かつやく とし
活躍した年:

1890~1936年



かつやく ぶんや
活躍した分野:

かじん
歌人



ゆかりのある場所:

あらしやまこうえん いちいなおきかひ
・嵐山公園(石井直樹歌碑)



いしい
石井

なおりぶろう
直三郎

新高総早倉
見梁社島敷
市市市町市

矢掛町

井浅里笠
原口庄岡
市市町市



いしいなおさぶろう めいじ ねん いま おだぐんやかげちょう う せいか かずかず
石井直三郎は、明治23（1890）年、今の小田郡矢掛町に生まれました。生家は数々
だいみょう ばくふ やくにん と ほんじんしよく だいだいつと いしいけ ぶんけ
の大名や幕府の役人が泊まったとされる本陣職を代々務めていた石井家の分家です。
とうきょうていこくだいがくこくぶんか しんがく だいがくざいがくちゅう さいじょうやそ どうじんざっし せいはい だ
東京帝国大学国文科に進学し、大学在学中に西条八十らと同人雑誌『聖杯』を出しました。
よくねん たいしょう ねん おのえさいしゅう つく かし しゃぜんそうしや はい たいしょう
翌年の大正2（1913）年に尾上柴舟が作った歌誌「車前草社」に入り、さらに、大正
3（1914）年に『水甕』創刊に参加して、その編集に携わることとなりました。大正5（1
916）年、東大大学院を終えると、萬朝報に入って美術記者となり活躍していましたが、
とうじ ていつはくぶつかんちょう もりおうがい みと どうかん しょくたく にん
当時の帝室博物館長の森鷗外に認められて、同館の嘱託に任じられました。
たいしょう ねん だいはちこうとうがっこうきょうじゅ なごや い ち みずがめ
大正9（1920）年には第八高等学校教授となり、名古屋へ行きました。この地へ『水甕』
うつ へんしゅう さい わか な
を移して編集していましたが、47才の若さで亡くなりました。
せいか みなみ やかげあらしやまこうえん なおさぶろう うた よろず な
生家の南にある矢掛嵐山公園には、直三郎の歌「やまいくへ ゆふや万 いくへ 鳴かぬ
とうり やま きざ ひ た
東里 さびしきとりのおちている山」を刻んだ碑が建っています。
かしゅう せいじゅ つれづれぐさしんしゃく かふう せんせい おのえさいしゅう おんわへいみょう
歌集には、ほかに『青樹』『徒然草新釈』がありその歌風は、先生の尾上柴舟の温和平明な
つ す あいせつ ただよ かとうまさゆき おお かじん そだ
リリズムを継いで、澄んだ哀切さを漂わせています。また加藤将之ら多くの歌人を育てま
した。